

授業科目名	臨床薬理学 I (基礎)		担当教員	◎中川 雄介、阿部 誠也、 古賀 裕基	科目ナンバリング NB248
必修	開講年次：2年後期	単位：2単位	授業形態：講義30時間		

### 【授業概要】

薬物が生体に及ぼす作用を調べる薬物作用学と、生態が薬物に対して何をするか体内での薬物の動きを研究する薬物動態学の両面からアプローチし、薬の副作用や相互作用とそのメカニズムを理解する。

### 【達成目標】

薬の薬理作用と薬物動態学の原理を理解し、各疾病に使用される薬についての知識を分類カテゴリーに関連させながら深めていき、安全で効果的な薬の投薬と患者教育、観察に備える。

### 【履修条件】

特になし

### 【授業計画】

[01] 薬理学の概念、薬理作用と作用機序、薬物動態、副作用、相互作用	(中川)
[02] 薬物療法に影響を与える因子、小児、妊婦、高齢者の薬物治療	(阿部)
[03] 末梢神経作用薬	(中川)
[04] 中枢神経作用薬	(古賀)
[05] 心臓・血管作用薬	(阿部)
[06] 輸液・腎臓作用薬	(阿部)
[07] 血液・造血器系作用薬	(中川)
[08] 抗炎症薬	(阿部)
[09] 呼吸器系作用薬	(中川)
[10] 消化器系作用薬	(古賀)
[11] ホルモン系・生殖器系作用薬	(阿部)
[12] 抗感染症薬	(古賀)
[13] 抗悪性腫瘍薬	(中川)
[14] 医薬品の管理	(古賀)
[15] 漢方薬	(古賀)

### 【教科書】

安原一、小口勝司編(2014)：わかりやすい薬理学(第4版)、ヌーヴェルヒロカワ

### 【参考書】

編集 大橋京一(2012)：疾患からみた臨床薬理学 第3版 じほう

### 【評価方法・評価基準】

テスト：100%

### 【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：各項目の最初に記載されている「学習目標」を確認し、その内容に沿って教科書の確認をしておく。  
(1時間)

事後学習：各章の最後にまとめられている「看護上の留意点」、「学習課題」、「キーワード」を中心に振り返りを行う。また、「基礎知識」では疾病の病態と治療方針を、「治療薬」では各医薬品の作用機序や分類などを復習し、「看護上の留意点」を理解する。(1時間)

### 【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

### 【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

模範解答の提示

### 【備考】

特になし